

あかりアートプロジェクト

教育・研究

地域交流

ボランティア

代表者：教育学部情報文化課程 3年 鳥居 美伸

連携先

水戸市市長公室地域振興課

顧問教員

寺本輝正（教育学部美術教育教室 教授）

参加者

鳥居 美伸（教育学部 3年）
東ヶ崎麻未（教育学部 4年）
井川 太郎（教育学部 3年）
岡 実鈴（教育学部 3年）
小澤 栞莉（教育学部 3年）
重松 友美（教育学部 3年）
深栖 優希（教育学部 3年）
眞壁 悠久（教育学部 3年）
宮本麻衣子（教育学部 3年）
村山 恵美（教育学部 3年）
松田 美輝（教育学部 3年）
米倉 梨子（教育学部 3年）
渡邊 麻衣（教育学部 3年）
平田 亜美（教育学部 3年）

プロジェクトの申請内容

●プロジェクト概要

これまで、本学教育学部情報文化課程では、過去十数年にわたって機能性を重視した照明に芸術的側面を加えた「あかりアート」の研究・制作を積み重ねてきた。長年、「あかりアート」によって生み出される光や空間の変化を学び、街並づくりに活用できないかと考えた。そこで、水戸市の地域振興課と連携し、「あかりアート」の作品展示や実際に制作するワークショップを通して、「あかりアート」を身近に感じる機会を作る。

夜のイベントを盛り上げるあかりアート作品は、点灯した瞬間に「花が咲く」ような、そんな幻想的な美しさも感じられる。「あかりアートプロジェクト」は、「水戸の街がもっと好きになる」街づくりの提案をする。

●目的

「あかりアート」による

- ①イベントの企画
- ②まちづくりの活性化

●期待される成果

- ① 水戸市で行われるイベントに「あかりアート」の作品を展示し、非日常的な空間を作り出すことで、「あかりアート」が「いつもと違う街のかお」を創り、街が持つ魅力の再発見・再認識を地域住民に促す

ことにつながり、街全体の意識が高まる
ことが期待できる。また、全国レベルの
展覧会に出品した作品を展示することで、
イベントをさらに盛り上げることができる。

- ② 学生がサポートする西の内和紙を用いた
「あかりアートづくり教室」を開催する
ことで、地域住民に「あかりアート」の
制作を通して、「あかりアート」をより身
近に感じてもらうことができる。さらに、
そこで制作された作品を水戸市で行われ
るイベントで展示することも可能となり、
より積極的なイベントへの参加が望め、
地域の活性化が期待できる。

●連携の方法・内容

地域住民が身近に「あかりアート」に触れる
機会を作る。

- ① 水戸市で行われるイベントでの「あかり
アート」の展示
- ② 西ノ内和紙を用いた「あかりアート作り
教室」の開催

プロジェクトの実施概要

月	内容
6月	・あかりアート作品の研究制作(6月～10月まで 作品講評会全15回) ・山方町への西の内和紙の買い付け
7月	地域振興課との展示会議(12月まで毎月実施)
8月	美濃和紙の取り寄せ
9月	美濃和紙あかりアート展に向けての作品制作
10月	美濃和紙あかりアート展出展
11月	・水戸芸術館の下見・会議(全15回実施) ・あかりアート作り教室準備 ・イベント告知ポスター制作 ・山方町への西の内和紙の買い付け
12月	・イベント広報活動 ・「あかりアート作り教室in 茨城大学」の実施(12/8) ・あかりアート作品展示打ち合わせ(全10回実施) ・「あかりアート作品展示in 水戸芸術館」で2回実施(12/14・23)

プロジェクトの成果報告

①「第20回美濃和紙あかりアート展」への参加

日時：2013年10月12日（土）－13日（日）
場所：岐阜県美濃市うだつの上がる町並み
内容：全国から毎年多くの作品が集う大規模な展覧会（出展数446点）への作品出展および現地スタッフの運営等の視察

6月から各自あかりアート作品の研究・制作を行い、作品の質の向上を目指した。模型作品は1人当たり10作品程度制作を行い、その中から展覧会への出展作品を決定した。当日のボランティアスタッフによる運営を視察するために、準備段階から見学した。展覧会では、優秀作品として入選3点、買い上げ作品が2点と好成績を残した。



↑ 作品講評会の様子

②「あかりアート作り教室in茨城大学」

日時：2013年12月8日（日）13:00-16:00
場所：茨城大学教育学部棟C101（工芸演習室）
内容：あかりアート作品をプロジェクトスタッフが指導し制作を体験してもらった。

小学生から60代までの幅広い年齢層の方12名に参加してもらい、実際にあかりアート作

品を制作してもらった。最初は戸惑っている参加者もいたが、プロジェクトスタッフによる指導によって、各々のイメージを固め、完成度の高い作品を作ることができた。小学生には難しい内容かと思われたが、子供ならではの柔軟な発想を手助けすることで、誰よりも早く作品の完成することができた。教室で行ったアンケートではほとんどの参加者から「あかりアートをととても身近に感じた」という回答を得た。



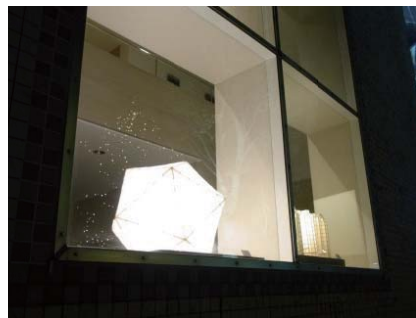
↑ あかりアート作り教室の様子

③「あかりアート作品展示in水戸芸術館」

日時：2013年12月14日（土）、12月23日（祝月） 16:00~21:00
場所：水戸芸術館
内容：水戸芸術館の「クリスマスコンサート」と合わせて、西ノ内和紙で制作し

たあかりアート作品、あかりアート作り教室参加者の作品を展示した。

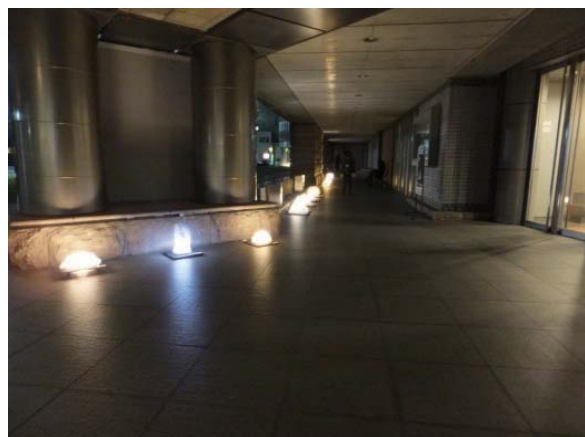
美濃和紙あかりアート展に出展した作品を西ノ内和紙で改善し、「あかりアート作り教室」にて制作してもらった作品と共に水戸芸術館の会議場窓側および回廊部分にて展示をした。両日ともに他のイベントと同時開催という形で行ったことで、より多くの人にあかりアートに触れてもらう機会を作ることができた。また、あかりアート作り教室の参加者は、展示されている自分の作品を多くの人に見てもらえたことにとっても満足していた。連携先の水戸市役所地域振興課をはじめ、共催した芸術館の方々からも高い評価を得ることができた。



↑水戸芸術館での展示の様子

「あかりアート」作品をイベントに展示することで、あかりに彩られた魅力的で非日常的な空間が生まれ、いつもと違う水戸の街が作りだされた。水戸の持つ歴史や文化、人々のにぎわいなど、普段何気なく見ている風景の中には、魅力がまだ隠されている。「あかりアート」を通して、水戸の街の魅力を再発見・再認識することで、地域への思いが更に強くなる機会を設けることができたと思う。

さらに、「あかりアート」が作り出す幻想的な雰囲気によって、イベントの活性化も望めた。ひかりのオブジェとして、地域住民が「あかりアートづくり教室」で作った作品を見に、多くの人々がイベントに会場することができた。



●今後の展望

一年間のプロジェクトの活動を終え、連携先の地域振興課や水戸芸術館の方から、今後も続けて欲しいと言ってもらえた。また、ワークショップ参加者からも、非常にいい経験ができたという感想をいただいた。

2月17日に行われたプロジェクト報告会で私たちの活動に共感していただいた常陸太田市の政策企画部の方々からも、「是非自分たちの街でも行ってほしい」という提案をしていただいた。今後、より多くの方にあかりアートを身近に感じられる機会を作っていきたい。「あかりアート作り教室」のような体験型のワークショップを催すなど、より地域の人々との交流を深めていきたい。